

裁かるゝジャンヌ (1928)

LA PASSION DE JEANNE D'ARC

メディア 映画
ジャンル ドラマ
製作国 フランス
色彩 B&W
時間 80分
初公開日 1929/10
公開情報 劇場公開

【解説】

ジョゼフ・デルテューイの小説版による“ジャンヌ・ダルク裁判”の物語で、間違いなくサイレント映画の一つの到達点だろう。“悪魔の子”とされ拷問を受けるジャンヌが苦しみに一度は屈服し、囚人として髪を刈られるシーンの厳しさ（実際に髪を切られ涙するクローズ・アップ）、そして自分を持ち直し、あえて火刑台に向かい火にかけられ、苦悶に顔を歪める瞬間、見る者をも貫く痛み（これも鮮烈なクローズ・アップで表現される）……。まさに原題にある“受難”（Passion）が情熱をもまた意味することを納得させられる映画だ。サンドリーヌ・ボネールによる90年代の「ジャンヌ／愛と自由の天使」、バーグマンやジーン・セバーグ版（これらは聖女の戦う乙女ぶりに焦点を当てているが）と、本作のファルコネッティのヒロイン像を比較してみるのも一興だろう。

【クレジット】

監督 カール・テオドール・ドライエル Carl Theodor Dreyer
脚本 ジョゼフ・デルテューイ
カール・テオドール・ドライエル Carl Theodor Dreyer
撮影 ルドルフ・マテ Rudolph Mate
出演 ルネ・ファルコネッティ Renée Falconetti
ウジェーヌ・シルヴァン Eugène Silvain
アントナン・アルトー Antonin Artaud